関西生コン弾圧事件ニュース NO.94　2023年11月5日

＜本号1ページ＞

韓国で『ここから』試写会（韓国語版）

「力をもらった」

●建設労組女性委員会ほか50人が参加

映画『ここから「関西生コン事件」と私たち』の韓国語版が完成した。

10 月 31 日には試写会がソウル市内で開かれ、韓国建設労組からパク・ミソンさん（本部副委員長、女性委員会委員長）をはじめソウル近郊の女性委員会メンバーが多数参加したほか、民主労総法務院、市民団体から参加者があった。

韓国ではユン政権による労働組合弾圧の嵐が吹き荒れている。とりわけ、ユン大統領自身が閣議で建設労組を「建暴」（建設現場の暴力集団）と悪態をついて批難し、政権ぐるみの弾圧が仕掛けられている。参加した組合員たちは、映像で描き出される日本での弾圧の実態、そして、大量の脱退者を出しながらも組合を去ろうとしない関西生コンの組合員たちの姿に、食い入るように見入っていた。

●参加者の感想から

終了後は、夜遅くまで交流会がつづき、「力をもらった」と何人もの組合員が語ってくれた。

「私は日本に対しては、ちょっといろいろな感情があるけどね。でも、労働組合でたたかっている人の熱い気持ちは同じなんだなと思いました」と話す、組合員歴 23 年の女性もいた。

また、タワークレーンのオペレーター、キム・ギョンシンさんは次のような感想文を送ってくれた。

名前は覚えていないが、無罪を勝ち取った方の言葉が凄く胸に響きます。

「穴が開いた船！　アホだから乗っている。穴を塞いでいくため、私たちはこれからも頑張って行きたい。半分は塞いだと思う。船がまた浮いたら、みんなまた帰ってくると思う。」

今、組合に残っている私たちが持つべき考え方だと思い、とても良かった。

離れた同志の悪口の代わりに、私たちはやるべきことをやっていかなくてはならない。

今日はお疲れ様でした。

発行：全日建（全日本建設運輸連帯労働組合）　お問い合わせ０３－５８３０－６４１８